

令和5年度 第1回那須町教育・保育施設未来検討委員会

会議録(要点記録)

日時：令和5年7月10日(月) 13:30～14:57

場所：那須町役場 正庁

項目	内容
1 開会	
2 教育長 あいさつ	<教育長> 平成28年度から那須町第2期保育園運営適正化・整備計画を実施している。前期計画では、那須高原保育園の民営化、大同保育園と高久保育園の統合によるなすのそら保育園の新設を行った。後期計画では、黒田原第2保育園と千振保育園の統廃合や運営適正化について議論を行ってきたが、定員割れや人口減少のスピードが予想以上に速いことから、町内教育・保育施設全体のあり方を含めた検討が必要である。
3 各委員 自己紹介	省略。
4 委員長 及び副委員 長の選出	以下のとおり委員長及び副委員長が選出された。 <委員長> 宇都宮共和大学非常勤講師 高柳 恭子 <副委員長> 那須町民生児童委員協議会 新巻 はるみ
5 委員長 あいさつ	<委員長> 少子化及び人口減少は全国的な問題であり、子ども子育て会議等での推計以上に子どもは少なくなっているが、結局まちづくりの問題に帰結すると思う。小さい町、少ない施設数の那須町だからこそできるアイデアを出していただきたい。
6 議事	(1)那須町教育・保育施設の現状と課題について(説明) <事務局> 資料別紙1について説明を行った。 ・出生数及び就学前児童数の推移について 転入出等を考慮しない場合、令和14年度の就学前児童数(0～5歳)の合計は推計で255人となる。

- ・入園児数及び施設数について
那須高原保育園及びなすのそら保育園以外では定員割れとなっている。
- ・那須町第2期保育園運営適正化・整備計画の概要について
当該計画では、最終的に町内保育園は定員を80名以上とした5園(私立園を含む。)に整備することを目標としており、残る黒田原第2保育園と千振保育園の運営適正化について本年度中に方針を決定する必要がある。

<委員>

多少効率が悪くても那須町だからできる抜本的な提案をしていかななくてはならないが、そのようなアイデアを出してもいいのか。

<事務局>

自由にアイデアを出していただきたい。それを町執行部にも示していきたいと考えている。

<委員>

本件は子どもの減少やむなしで考えるのか、町の子育て世帯を少しでも増やしていくのか、それによって話の方向性が変わってくると思うがどうか。

<事務局>

町長の考えもあるので即答はできないが、こども未来課としては、直近で出生数の減少をどう乗り越えるかを考えなければならない。また、町では2地域居住による関連人口の増加の取り組みを行っている。那須町ならではの幼稚園・保育園のあり方をこの場で検討し、少子化及び人口減少に歯止めがかかればと思っている。なお、これまで特色のある教育等にも注目はしており、あったらいいと思うが、中々そうもいかないのが現実。

<委員長>

町が様々な方策を行っても子どもが増える見込みがなく、現在のプランで突き進んでよいか疑問があったので本検討会であると思っている。個人的な意見としては、子どもが減ってきたので民営化や統廃合しか方法がないかと言えば、そんなことはないと思う。例えば柔軟に縮小・拡張ができるような器、学園構想にあるような幼保小中一丸となった施設があると人も場所も有効活用できるのではないか。人口は急激に増えるわけではない。小さな施策が当たって少しずつ増えていくものと考えている。

<委員>

私は、民営化した保育園の保護者であり当事者である。公立の保育園で全く問題がなかったこともあり、民営化は必要ではないのではないかという立場だったが、様々な役員の機会等とおしていろいろな幼稚園・保育園があることがわかった。統廃合による民営化の際は単純に転園先を割り振られただけだったので、入園前に色々な選択肢があることを保護者に提示できると良いのではないか。

<委員>

定員とはどの程度が適切なのか。

<事務局>

定員は施設の面積基準等もあるが、少なすぎても集団保育の面においては子どもにデメリットがあり、一定の規模以上が良い。一方、多すぎても全ての児童に十分な保育ができない場合があることや、小規模保育の良さがあるとも考える。町としては100%を超えることを目標にしているわけではないため、ある程度余裕をもった保育ができるとよいと考えている。

なお、職員や面積基準的には100%でも保育に支障はないこととされている。

<委員長>

保育者の立場からすると適切な規模はあると思う。100%でちょうど良いのではないか。逆に50%を切ってしまうと子ども同士のふれあいの機会が少なくなってしまう。

<委員>

経営者の立場からすると定員の100%は入ってほしい。当園では現在保育士不足により定員の100%受け入れることができていないが、裏を返すと保育士がいるにも関わらず100%とならない場合は経営が破綻する。ただ、年度途中からの入園や転入者の分を考慮し若干の余裕はあってもいいが。

<委員>

小規模な保育に魅力を感じて自分の子を運営適正化計画の対象園に入園させており、今の入園人数くらいが丁度いいと感じている。

<委員>

施設の老朽化について、保育施設の充実も必要であると考えているが、段階的な建て替えやメンテナンスの計画はあるのか。

<事務局>

30年～40年経っている建物については、増改築や補修など適切に行い安全性を確保していく予定である。

<委員>

保育サービスの需給の現状について、今どれくらいのサービスがあって希望されている方が使えているか、また過剰なサービスになっていて利用する方がいないのか、バランスはどうか。

<事務局>

一時預かり保育については需要があり、実際に問い合わせもある。公立・私立共に実施できていないので、早急に整備する必要があると考えている。また、休日保育については公立保育園の民営化の段階で特別保育の充実・改善を条件に募集していたので、実施に向けて力を入れていただきたいと考えている。

<委員>

一時保育や休日保育を利用したい方は、現状あきらめているということで良いか。

<委員長>

保育士不足もあり、やりたくてもできない現状があるのではないか。

<委員>

保育士は正直ブラックで、仕事と賃金が見合っていないと感じる。大切な我が子を預けた先の保育士が心と体をすり減らして2～3年で辞めてしまうのは公立・私立を問わず問題だと思う。現在の配置よりもっと保育士が必要であることを基準等に盛り込んでほしいと思っている。

また、転入者には補助金等が手厚いが、元々住んでいる若い人は町内に居を構えるメリットがないので、固定資産税の減免などがあればいいのと思う。

最後に、那須町で子育てをするメリットが欲しい。町内の観光施設等の利用について子ども無料等補助があると良いのではないか。

<委員長>

この年になると給料だけではなく、保育というのは体力的にも精神的にも大変な仕事なんだということが分かってくる。

<事務局>

公立・私立問わず保育士不足である。公立も安定していると

	<p>思われているが、就職して2～3年の職員が辞めているような現状もある。保育士が働きやすい環境をどのように作っていくかは課題として捉えている。</p> <p>また、ずっと住んでいる方に対する補助はいい意見だと思うので、町づくり懇談会等でもご意見いただけるとありがたい。町としても観光商工課や商工会に働きかけていきたいと思う。</p> <p><委員></p> <p>一度那須塩原に転出した経験があるが、歩いて行ける距離にスーパーマーケット等があると那須町に戻ったときの不便さが際立つ。また、住宅に対する補助金も転入した方が住宅を購入する場合や新築する場合は出るが、町民が新築した場合は出ない。現在那須町は転入超過だが、転入している方は子育て世帯が少ない。今那須町にいる人が転出していかないことが大切ではないか。</p> <p>(2)今後のスケジュールについて(説明)</p> <p>省略。</p>
7 その他	なし。
8 閉会	

那須町教育・保育施設未来検討委員会委員名簿

【委員】

	団体等名	氏名	出欠等
1	宇都宮共和大学非常勤講師	高柳 恭子	出席
2	那須町保育園保護者（公立）	青木 優磨	出席
3	那須町保育園保護者（私立）	土屋 公克	出席
4	認定こども園・幼稚園保護者会	鈴木 幸子	出席
5	認定こども園・幼稚園施設長	高橋 明男	出席
6	私立保育園施設長	吉田 泰子	代理
7	那須町自治会連合会	秋元 優	出席
8	那須町民生児童委員協議会	新巻 はるみ	出席
9	那須町地域活性化起業人	松井 彩	出席
10	那須町小中学校長会	遠藤 克朗	代理
11	那須町子育て支援センター所長	渡邊 幸子	出席
12	那須町保育園長	佐藤 恵美子	出席

【事務局】

	所 属	職 名	氏 名	出欠等
1	こども未来課	課長	大森 貴之	出席
2	〃	課長補佐兼こども政策係長	君島 絹代	出席
3	〃	保育係長	薄井 宏美	出席
4	〃	管理係長	仙波 勇気	出席
5	〃	保育係係員	相馬 和紀	出席